JENESYS

JENESYS2021　日 ASEAN 東ティモール・オンライン交流
（日本の「食」を知る）記録

１．概要

【目的】ASEAN 諸国及び東ティモールの青年が、ASEAN の推進する AOIP と日本の推進する FOIP にて提唱される連結性について理解し、また、日本の食文化や食の安全性を学び、対外発信することで、これらの概念を ASEAN 各国・地域に普及させることを主目的に、本プログラムを実施しました。

【参加者】　ASEAN 10 か国、東ティモールの大学生・大学院生 計 229 名
※ ASEAN 10 か国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

【訪問地】　東京都、宮城県、岩手県、福島県

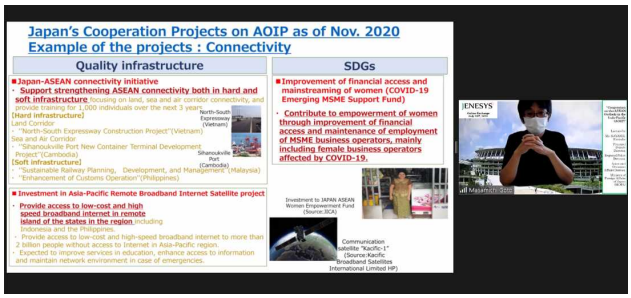
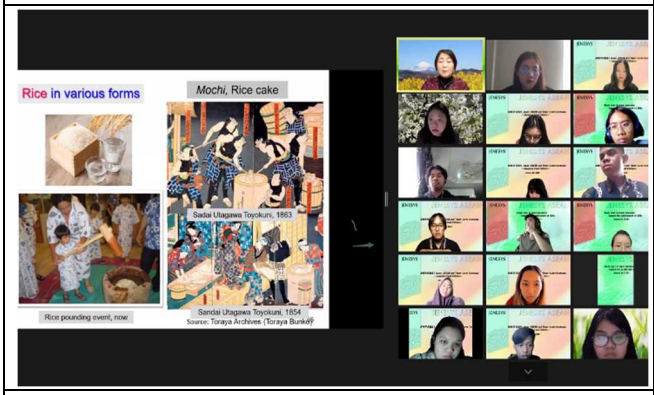
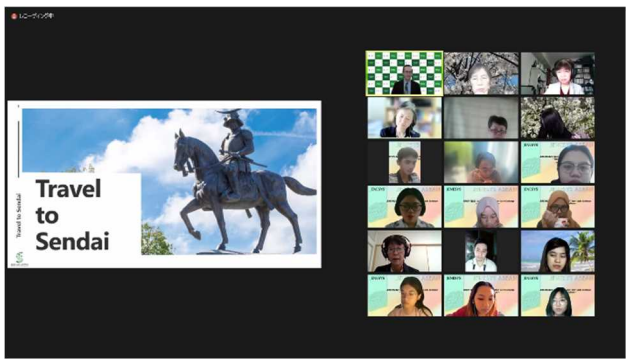
【日程】

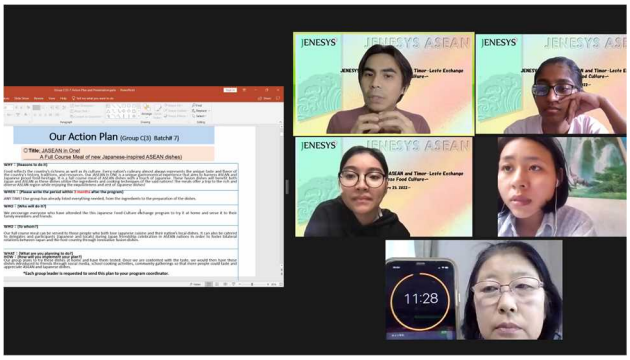
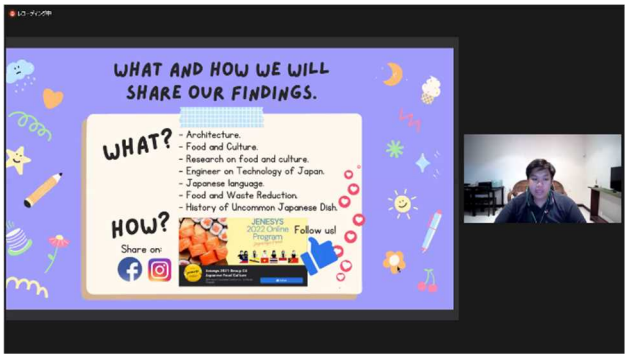
日付 訪問地	内容	参加者の質問・反応
以下 2 日間の参加人数：140 名（他のプログラムと合同実施）		
2021 年 7 月 28 日 東京都	【ウェビナー・質疑応答】 「Cooperation on the ASEAN Outlook on the Indo-Pacific (AOIP)」 講師：外務省アジア大洋州局地域政策参事官室　林　弘毅氏 1. 講義・VTR 視聴 2. 質疑応答	質疑応答では、参加者より、「インド太平洋地域での日本の役割は何か」「ベトナムに対する日本のビジョンは何か」「コロナ禍でインド太平洋地域の各国関係はどのような影響を受けるか」といった質問がありました。
2022 年 1 月 22 日 ～	【動画視聴】 1. 外務省挨拶 2. 日本文化理解（京都） 3. 南三陸町からのメッセージ 4. 日本語学習	本プログラム開始前に日本やプログラムに関する動画を配信し、参加者は視聴してから本プログラムに参加しました。
以下 6 日間の参加人数：89 名		
2022 年 1 月 25 日 東京都	【オリエンテーション】【ウェビナー・質疑応答】 1. 自己紹介（グループ別） 2. 日本理解講義・質疑応答	日本理解講義では、多くの参加者が熱心に聞き入っていました。「宗教や人種の違いによる対立はないですか」「日本にはなぜチップがないのですか」など日本に対してより

	「日本の社会と文化」 講師：アンドラディ　久美氏 3. グループ別交流	深く知ろうとする質問が多くあがりました。プログラム初日でしたが、参加者から日本のことを積極的に学ぼうとする姿が見られました。グループ別交流では、参加者がそれぞれ発言し、互いを知ろうとする雰囲気が生まれました。グループごとにリーダー、サブリーダーを選出し、選出された方は積極的に発言されていました。
2021 年 1 月 26 日 東京都台東区	【ウェビナー・視察】 「和食の魅力ツアー」 浅草商店街連合会 1. ビデオ視聴：NHK「新日本風土記」浅草商連出演 2. プレゼンテーション：浅草の紹介 協同組合浅草商会連合会　理事　西山繁夫氏 3. 和食店舗の紹介 茶寮一松　宮代　清子氏 桜鍋中江　中江　白志氏 駒形どぜう　渡辺　隆史氏 4. 各店舗の店主との交流会 5. ライブ中継：浅草仲見世・浅草寺・浅草神社	プログラムはじめに浅草における問題への取組みをとりあげた NHK 番組のビデオを上映しながら、浅草商店連合会より、観光、芸能、職人、仲見世、浅草寺など浅草の魅力や歴史的背景について紹介を受けました。次に歴史ある老舗和食店舗の店主による店舗紹介・グループに分かれた交流会を行いました。参加者からは、「古い建物を維持しながら経営で気を付けることは何がありますか」「馬肉を使った料理は、他の食材に比べて高価ですか」などビデオや写真を見て感じた質問を多くいただきました。最後のライブ中継では、浅草仲見世から浅草寺境内、浅草神社まで中継で繋いで紹介され、短い時間ながら、参加者から 150 件ほどのコメントが寄せられ、オンライン上でありながらも楽しく賑わい、おおいに盛り上がったプログラムとなりました。
2022 年 1 月 27 日 宮城県仙台市	【自治体訪問、交流】 交流先：宮城県仙台市 1. 講義、質疑応答 「Travel to Sendai」 仙台市概要紹介　仙台市交流企画課 国際交流員　タイラー・カールソン氏 2. 講義、質疑応答 「スマートシティ実行計画～泉パークタウン～」 仙台市都市計画部　参事　菅原　洋二氏 3. 代表参加者から挨拶、記念撮影	前半の講義の講師がアメリカ出身でしたので、外国人が知りたい内容が盛り込まれていて、参加者は大変興味を持って聞き入っていました。仙台の魅力や仙台に住んでいる理由、東日本大震災後の仙台市の対応、七夕祭りの時の特別な食べ物など、参加者から具体的な質問が多く挙がり、大変活気ある講義になりました。 後半のスマートシティに関する講義では、参加者は日本の高い技術だけでなく、環境や個人情報保護、高齢者とテクノロジーにも高い関心を示していました。「仙台市のこ

		の取り組みは日本の他の都市でも展開されるのか」「個人情報が洩れる心配は無いのか」「高齢者が新しい技術を使いこなせるのか」「太陽光以外に石油などの資源は使うのか」など多岐に渡る質問が多く挙がりました。
2022 年 1 月 28 日 岩手県久慈市、福島県南会津郡	【ホームビジット】 岩手県久慈市、福島県南会津郡 1. 地域紹介 一般社団法人久慈市ふるさと体験学習協会、みなみあいづ観光 2. ホストファミリー紹介 3. 各家庭との交流、記念撮影 4. 感想発表	岩手県久慈市、福島県南会津郡の 2 か所にホームビジットの体験をしました。それぞれ家の中の様子や家族の趣味、そば打ちのデモンストレーションなど、普段の生活についてホストファミリーが紹介しました。参加者は終始高い関心をもって参加し、沢山の質問が挙がりました。福島県南会津郡の訪問ではその土地の暮らし、雪下野菜、かまくらなどの紹介があり、参加者は大変興味を持ちながら聴講していました。参加者からも自国の文化や食などについて紹介し、日本の地方の方との交流を最後まで楽しんだ様子でした。
2022 年 1 月 29 日 東京都	【ワークショップ（報告会準備）】 1. グループに分かれてアクション・プランの作成 2. 報告会に向けた発表準備	グループに分かれて、翌日の報告会に向けてアクション・プランを作成しました。すでに SNS で話し合いやテーマ決めを進めていたグループもあり、今回のプログラムで学んだ日本について、積極的に広めたいという意見が参加者から次々に挙がりました。
2022 年 1 月 30 日 東京都	【報告会】 1. グループプレゼンテーショ 2. 講評 アンドラディ　久美氏 3. 記念撮影	前日準備したアクション・プランを基に発表を行いました。両グループともに、とても堂々と発表を行いました。

２．記録写真

<table>
<tr><td> 
</td><td>
</td></tr>
<tr><td>2021 年 7 月 28 日【ウェビナー・質疑応答】外務省による講義の様子</td><td>2021 年 7 月 28 日【ウェビナー・質疑応答】質疑応答の様子</td></tr>
<tr><td>
</td><td>
</td></tr>
<tr><td>2021 年 7 月 28 日【ウェビナー・質疑応答】質疑応答の様子</td><td>2021 年 7 月 28 日【ウェビナー・質疑応答】質疑応答の様子</td></tr>
<tr><td> 
</td><td> </td></tr>
<tr><td>2022 年 1 月 25 日【ウェビナー・質疑応答】講義の様子</td><td>2022 年 1 月 26 日【ウェビナー・視察】ライブ中継の様子</td></tr>
<tr><td> 
</td><td>
</td></tr>
<tr><td>2022 年 1 月 27 日【自治体訪問、交流】仙台市</td><td>2022 年 1 月 28 日【ホームビジット】</td></tr>
</table>

概要紹介の様子	
	
2022 年 1 月 29 日【ワークショップ】	2022 年 1 月 30 日【報告会】プレゼンテーションの様子

３．参加者の感想（抜粋）

◆ フィリピン　大学生

このオンライン講義に参加し、特に、昨今のコロナ禍の中で、日本政府が ASEAN 地域全体と築き上げている関係について深く理解することができました。非常に貴重な機会でした。

◆ 東ティモール　大学生

日本の文化や人々、そして ASEAN 地域について学ぶことができ、このような企画に参加できてとても嬉しかったです。こうしたプログラムがまた開催されることを願っています。

◆ ミャンマー　社会人

日 ASEAN 関係について学ぶことができ、大変良い機会となりました。 いつか日本で様々なことを学んでみたいと考えてきましたが、今回のプログラムに参加したことで、さらにその気持ちが高まりました。

◆ 東ティモール　大学生

今回のプログラムは本当に素晴らしかったです。日本の地理や宗教などについても少し、さらには日本の寺院や食、文化についても知ることができました。普段はテレビで知っているだけの日本でしたが、このプログラムに参加したことで日本についてより深く知ることができ嬉しいです。

◆ インドネシア　大学生

今回のオンライン交流プログラムの実施は申し分なく、とても楽しむことができました。内容もとても興味深く、自分の視野が広がりました。今まで知らなかった知識を得ることができました。初等教育から大学まで、日本に関する教育の機会を増やして欲しいです。素晴らしい経験をありがとうございました。

◆ フィリピン　大学生

このオンラインプログラムは、日本の文化や伝統に関する知識を深めるために大変有意義でした。次回は、各国のファシリテーター（グループ代表）だけでなく、参加者一人ひとりが日本の参加者と交流する機会を設けてほしいです。

４．受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

参加者から多くの質問をいただきました。対面の講義とは異なり、受講生が理解している様子がわからないオンラインの講義では、できるだけ丁寧に講義をしたいと思いました。

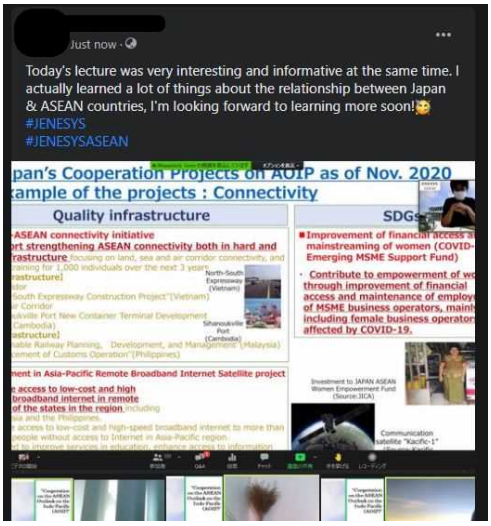
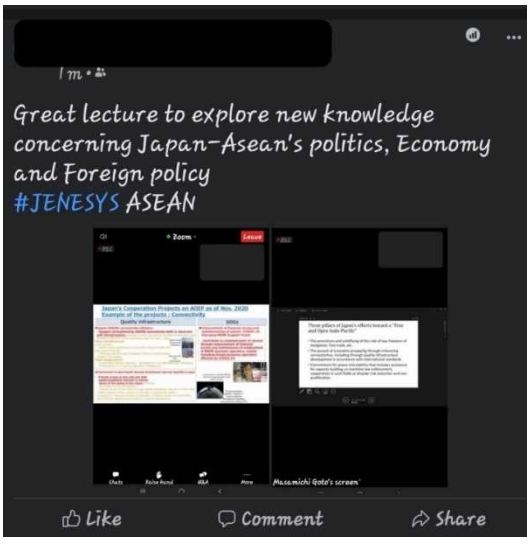
◆ 視察先担当者

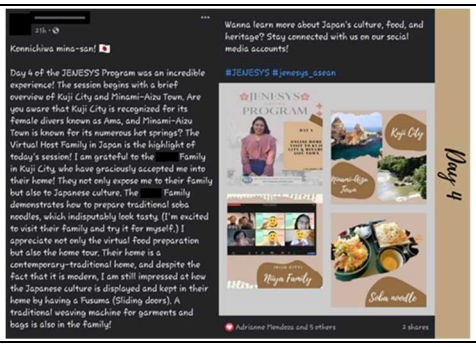
新型コロナウイルス感染症の影響で外国との行き来ができない中、国を超えた交流や人材の育成を進めるプランに共感しました。初めての経験でしたが、時間配分や内容を改善してさらにより良い内容にしていきたいと思います。皆さん熱心に聴講して頂き嬉しく思います。

◆ 協力団体

新型コロナウイルス感染症蔓延により、これまではホストファミリーの方々に元気がないこともあったのですが、このプログラムに参加して（海外との交流に対する）モチベーションが上がったように思いました。

５．参加者の対外発信、報道事例等

	
2021 年 7 月 28 日（Facebook） 今日の講義はとても面白く有益でした。近いうちに、さらに深く学べる機会を持てることを、楽しみにしています！	2021 年 7 月 28 日（Facebook） 日本・ASEAN の政治、経済、外交政策に関する新しい知識を得ることができた素晴らしい講義でした。



2022 年 1 月 28 日（Instagram）

プログラム 4 日目は、信じられない様な体験ができました。まず、久慈市と南会津町の概要説明から始まりました。久慈市は海女さん、南会津町は温泉地として知られていることをご存知ですか？今日の目玉は、日本のバーチャルホストファミリーです。久慈市のホストファミリーは、快く私を受け入れてくださり、感謝しています。そして家族のみならず日本の文化も教えてくれました。伝統的な蕎麦の打ち方を実演してくれましたが、とても美味しそうなのです。（ご家庭を実際に訪ねて食べるのが楽しみです。）（バーチャル）お料理の準備だけで無く、家の中を案内してくださったことにも感謝しています。ホストファミリー宅は、現代的かつ伝統的な家で、近代的であるにもかかわらず、襖があって、どの様に日本の文化が装飾され、保存されているかということに感銘を受けました。また、衣服やバッグを織る伝統的な織り機もご家庭にありました。

浅草から食の魅力配信

ASEANなど若者に講座

バーチャルツアーで仲見世通りや周辺の店舗について説明する西山さん＝台東区浅草で

東南アジア諸国連合（ASEAN）地域などの若者に日本の産業などを学んでもらう交流プログラムの一環で二十六日、台東区浅草から、食の魅力を伝える講座の配信が行われた。浅草商店連合会の西山繁夫理事（六二）が講師役を務めた。

プログラムは、コロナ禍で国際的な人の往来ができない中でも、海外の若者に日本のことを知ってもらおうと、一般財団法人日本国際協力センター（新宿区）が企画した。

七日間のプログラムの二日目となるこの日は、ASEAN諸国と東ティモールから、高校生～三十代の社会人計約二百人がオンラインで参加。浅草にいる西山さんから話を聞いた。

西山さんが浅草神社や浅草寺の縁起、三社祭や仲見世のにぎわいなど浅草の魅力をスライドや映像で紹介。雷門から仲見世を通り、浅草寺境内までを実際に歩く「バーチャルツアー」も実施した。また、浅草に店を構える老舗料理店三店の店主と、受講生とのオンライン交流も行われた。

講座を終えた西山さんは「画面越しだが、受講生の日本への思いが感じられた」と話した。（小座佳彦）

2022 年 1 月 28 日（東京新聞）

東南アジア諸国連合（ASEAN）地域などの若者に日本の産業などを学んでもらう交流プログラムの一環で 26 日、台東区浅草から、食の魅力を伝える講座の配信が行われた。浅草商店連合会の西山繁夫理事（62）が講師役を務めた。

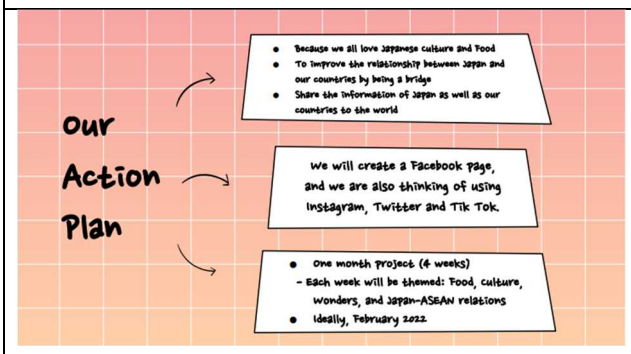
プログラムは、コロナ禍で国際的な人の往来ができない中でも、海外の若者に日本のことを知ってもらおうと、一般財団法人日本国際協力センター（新宿区）が企画した。

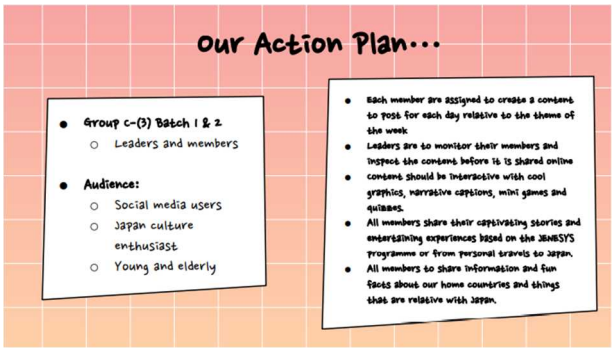
7 日間のプログラムの 2 日目となるこの日は、ASEAN 諸国と東ティモールから、高校生～30 代の社会人計約 200 人がオンラインで参加。浅草にいる西山さんから話を聞いた。

西山さんが浅草神社や浅草寺の縁起、三社祭や仲見世のにぎわいなど浅草の魅力をスライドや映像で紹介。雷門から仲見世を通り、浅草寺境内までを実際に歩く「バーチャルツアー」も実施した。また、浅草に店を構える老舗料理店 3 店の店主と、受講生とのオンライン交流も行われた。

講座を終えた西山さんは「画面越しだが、受講生の日本への思いが感じられた」と話した。

６．最終報告会でのアクション・プランの発表

<table>
<tr><td colspan="2">グループ　1、2</td></tr>
<tr><td> 


</td><td>「日本の食と驚き- SNS で育てる」

1. 私達皆日本の文化と食が大好きです。
2. 日本との架け橋となり、両国の関係をより良いものにします。
3. 日本および自国の情報を世界に発信します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">グループ　3</td></tr>
<tr><td>
</td><td>「JENESYS プログラムにより
実施していくこと」

■ 実施方法：
1. SNS ページを作成（Facebook や Instagram）（2 月第 1 週）
2. 内容を作成：各メンバーが各トピックの内容を選択（ポスター、写真、記事）（2 月第 1-2 週）
3. スケジュールの掲載と共有（2 月第 2 週）
4. 共有（2 月第 3-4 週）
■ 実施計画
1. Facebook, Instagram, LinkedIn、そして Video Reality を使って SMS プラットフォームを進めます。
2. 村のコミュニティーでプロモーションへの招待状を送ります。
3. 旅行業者と事業計画を作成します。
4. 地方の旅行委員会と計画を提案します。</td></tr>
</table>

グループ　4	
 	日本の建築、食と文化及びそのリサーチ、日本の技術エンジニア、日本語、食べ物とフードロス削減、日本のユニークな料理の歴史等をフェイスブックやインスタグラムで発信します。
グループ　6	
 	「弁当」に関する情報、たとえばその歴史、種類、面白い情報などをシェアします。そして「弁当」の具にできるフュージョン料理とその作り方をいくつか紹介します。 すべての情報は私たちが使っている SNS、学校の料理実習、地域の催し等で紹介します。そのようにして、より多くの人が ASEAN と日本の料理を食べて楽しんでもらえるようにします。

グループ　7	
 	「JASEAN in One!　日本発の新しい ASEAN 料理のフルコース」 ■ 実施理由： 食はその国の豊かさだけでなく、その文化をも映し出します。どの国の料理も、その国の歴史、伝統、資源が持つ独特の味や香りを表現していることがほとんどです。JASEAN in ONE は、ASEAN と日本が誇る食の伝統を生かしたユニークな美食体験です。それは、ASEAN の料理に和のテイストを加えたフルコース料理です。この多国籍料理は、日本と ASEAN の食材や調理法を活用したもので、双方に利益をもたらすものです。日本料理の繊細さを楽しみながら、豊かで多様な ASEAN 地域への旅を体験していただけることでしょう！ ■ 実施時期： いつでも実施可能です! 私たちのグループは、すでに材料から料理の準備まで、必要なものをすべてリストアップしています。 ■ 実施する者： この日本食文化交流プログラムの参加者全員に、家庭で家族や友人に作り、試食してもらいます。 ■ ターゲット： 私たちの提案するフルコースは、日本料理が好きな方、自国の郷土料理が好きな方にお召し上がりいただけます。また、ASEAN 諸国での日本友好記念式典に参加する代表団や参加者（日本人・現地の人）にも、斬新な多国籍料理を通して日本とホスト国の二国間関係を促進するために提供することができます。 ■ 実施方法： 私たちのグループは、これらの料理を家庭で試し、検証する予定です。そして、それが上手くいけば、これらの料理を SNS や学校の調理実習、地域の集まりなどで友達に紹介し、より多

<table>
<tr><td></td><td>くの人に ASEAN と日本の料理を味わってもらいたいと思います。</td></tr>
<tr><td colspan="2">グループ　8、9</td></tr>
<tr><td>
</td><td>■ 実施計画：
1. JENESYS 参加者と、日本の知識だけでなくパートナーとしてつながっていくように、コミュニティーでの行事を準備します。
2. 自分たちの大学で、学生向けのワークショップを開きます。学生間での更なる交流プログラムにつながります。
■ 実施方法：
1. SNS チャンネルを使ったオンラインの日本に関するクイズ祭りを開きます。
2. JENESYS プログラム参加者で”Cook & Show”大会をしたり、自分の街や通りで見かけた日本的な装飾などの写真を共有したりします。
3. 自分たちのコミュニティーで、JENESYS を通して学んだ知識や情報を共有します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">グループ　5、10</td></tr>
<tr><td>
</td><td>■ 目的：
本プログラムを通して学んだ日本の食や社会について、Facebook やインスタグラムで発信し、何故私たちが日本文化や日本人に興味や関心を持ったのか、理解してもらうこと。
■ 実施方法：
今後 4 週間、週ごとにトピックを決めて、Facebook やインスタを通して発信していく。
1 週目：日本人の挨拶
2 週目：日本で行ってみたい場所とその理由
3 週目：日本人の家族
4 週目：日本の食</td></tr>
</table>

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター (JICE)